

青山地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 令和5年11月26日(日)
午後4時00分～午後5時30分
- 2 場 所 青山公民館 大会議室
- 3 参加者 青山地区 23人
市 25人(市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、企画政策課長、縁結び課長、市民協働課長、福祉課長、子育て支援課長、介護保険課長、プロジェクト推進課長、教育施設課長、生涯学習課長、小中一貫教育推進室長)
オブザーバー 4人
傍聴者 8人

4 内 容

(1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

ア 青山地区及び周辺エリアの将来ビジョンについて

【まちづくり協議会・青山3丁目】

三木北高校は兵庫県の所管ではあるが、三木市も積極的に跡地活用を県とともに進めていただきたい。緑が丘東幼稚園も閉園となることから、地域としては学生が減少し、活気がなくなるようで寂しい思いがある。

【教育振興部長】

三木北高校の跡地について、何らかの活用が見込まれるものであれば、市も県と協議や調整はしていく。まずは子どもの人口推移を注視しながら三木市の学校の在り方について検討したい。

【まちづくり協議会・青山3丁目】

青山地区においても、外国から来た生徒数が増加している。教育委員会として、外国からの生徒に対する対応はどうなっているか。

【教育振興部長】

外国から来る児童生徒は年々、増加傾向にある。日常会話の段階から困っているのが現状であり、そのため、来日から1年間は県の多文化共生サポーター制度があり、教育支援とともに生活支援も行っている。

多文化共生サポーターの期間を過ぎても支援が必要な児童生徒は三木市独自の支援制度により対応をしているところである。

また、放課後にボランティアの方にも学習支援に入っただけ活動なども進めている。

【まちづくり協議会・青山3丁目】

外国人労働者の中には家族を日本に連れてきたいという希望が多くある。また、外国から親についてきた子供たちの中には帰化するなどにより、地域に住むようになっている。ただ、学校では外国からの生徒は、少数であることから肩身の狭い思いをしている。このような子どもも三木市の将来を担っていく存在となるよう教育の支援をしていただきたい。

【教育振興部長】

世界中からあらゆる国の子どもが来日している。そのような中、少しずつ学校側にも、外国人の子どもに対するノウハウもできてきているので、それを重ねながら今後も進路指導等をはじめとした支援をしていきたい。

イ 民生委員・児童委員の成り手不足

【青山6丁目自治会】

青山6丁目では未だ民生委員が決まっていない。民生委員のなり手が無い理由は二点あると考えている。一点目はこれまでのなり手であった高齢者が働いている場合が多く、引き受けてくれないこと。二点目は、民生委員には、知り得た個人情報等について、守秘義務が課せられていること。これらを理由に、民生委員を一般の方が引き受けにくい状況にある。そのような状況の中、自治会において民生委員を推薦することは困難である。

【副市長】

民生委員は自治会の役員ではなく、厚生労働省から委嘱を

受けた非常勤特別職である。民生委員の役割は、地域の困りごとを解決するのではなく、困っている人に必要な福祉サービス等を届けるため、役所につなげることである。このことを理解していただけるよう、市としてもできることを検討していきたいと考えている。

【青山6丁目自治会】

言われた通り、民生委員は自治会の仕事ではない。であるならば、その民生委員の推薦を自治会に任せるのではなく、市が決めるなどしていただきたい。

【福祉課長】

民生委員の委嘱には、まず市で推薦会に諮り、兵庫県へ上申する。市の推薦会に諮るにあたり、原則、自治会長から推薦をいただく手続きとなっている。これは市で決める手続きではあるが、北播磨県民局管内の市町では、三木市同様、自治会長からの推薦をいただくこととなっている。これは自治会と民生委員が協力して、地域を支えていただきたいという考えからであるので、ご理解いただきたい。

【青山6丁目自治会】

民生委員の役割について、市民が知らないこともなり手不足の一因と考える。市において、民生委員の役割等について周知願いたい。

【市長】

民生委員の推薦について、苦慮されていること重々承知している。市は地域や自治会の全世帯について、全て把握することは困難である。そこで、地域のことを一番理解・把握している自治会から民生委員を推薦していただいている。また、民生委員の役割等について、市民の皆様へ理解していただくため周知をさせていただくので、ご理解をお願いしたい。

ウ 「三木市 SDG s 未来都市」の「青山7丁目を拠点とした住み続けられるまちの実現」について

【まちづくり協議会】

青山7丁目を中心とした「住み続けられるまち」ビジョンの内容について、非常に素晴らしい構想だと理解している。地区としても協力していきたいと考えている。まず、このビ

ジョンの現状について、具体的に説明していただきたい。次に、大和ハウス工業とともに事業を進めているが、大和ハウス工業と三木市の「住み続けられるまち」ビジョンの方向性は一致しているのか教えていただきたい。

【総合政策部長】

1点目について、現在、特別養護老人ホーム等の建設用地の造成工事を実施している。まだ造成工事段階であり、具体が見えなく、分かりにくいこと理解しているが、説明すべきことは必ず説明するのでご理解いただきたい。2点目のビジョンの方向性については、大和ハウス工業と一致している。

【まちづくり協議会】

青山7丁目開発には、10年以上関与している。素晴らしいビジョンであるので是非進めていただきたい。また、このビジョンについて、もっと市民や住民に関心を持っていただきたいと考えている。

エ まちづくり協議会の今後の運営について

【まちづくり協議会】

まちづくり協議会の活動等について、可能な範囲で自立を目指している。ただ現在、コロナ明けのまちづくり協議会の活動再開により、自立に向けての活動は一旦止めている。しかし、まちづくり協議会の仕事量の分析などは行っていた。その中で、公民館に配属されている、まちづくり担当職員の協力は今後も必要だと感じている。さらに、まちづくり協議会の活動を継続していくには、固定した活動拠点が必要と考えている。公民館の事務室は継続的に占有することができないので、拠点となる事務室の建設等について、ご理解ご協力をいただきたい。

【市民生活部長】

市民協議会の自立について、現時点では市民協議会が独自に事務員を雇用することは想定していない。今後も、市民協議会の運営の側面支援は、まちづくり担当職員が担っていく。また、今後の活動拠点については、現時点で市としての明確な答えは持ち合わせていないが、引き続き、協議を続けたいと考えている。

【市 長】

各まちづくり協議会において、それぞれ考えややり方がある。青山地区のみ特別扱いはできないが、先進事例となれば、他地区への展開も考えられるので、まちづくり担当職員等と協議し、より良いものにしていただきたい。

オ 高齢化社会に向けて、2050年へ長期展望について

【青山3. 4. 5. 6丁目】

今後、継続して若い世代に住んでいただくための環境整備について、子育て支援策や学校給食の無償化など検討案があればお聞かせいただきたい。

【総合政策部長】

市としても既に若い世代が住み続けるための施策を実施している。しかし、高齢化の進展や出生数の減少が進み、子育て支援を充実したとしても、人口が増加することはないと考えている。そうした中でも、一定の地域活力を維持する施策が必要であると考えている。住む場所を選択する際には、子育て施策より、仕事へのアクセス等の利便性を優先するとの新聞記事があった。もちろん子育て施策も必要であり、充実させていくこととともに、情報公園都市の開発など働く場の創出も進めていきたいと考えている。

【市 長】

今後、人口は減少する。これを是とした上でどうまちづくりを進めるか。まずは働く場の創出、そしてもう一つは教育だと考えている。三木で生まれ育った子が、進学や就職で三木を離れても、三木の教育を自身の子に受けさせたいと帰ってくる、そのため、小中一貫校の設置を進めている。

【青山3. 4. 5. 6丁目】

働く場、働く環境について、現在の若い方は働く場を選ぶ際に、育休等がきちんと取れるかに重きを置くという話を聞いた。まずは、三木市役所が率先し、特に男性の育休取得をしていただき、市内企業へ浸透させていただきたい。そうして、働く場の環境を整え、三木市に住む人が増え、子育てしやすいまちになって欲しいと考えている。

【総務部長】

三木市役所においても、近年、男性も育休を取得している。ただし、3ヶ月や1ヶ月など短期間の取得が多い状況である。このような働く場の環境整備については、ご提案のとおり、三木市役所から率先して取り組んでいきたいと考えている。